

事業環境の変化に伴う業績予想修正 について

代表取締役社長 佐藤 潔

2008年10月31日

事業環境の変化



事業環境

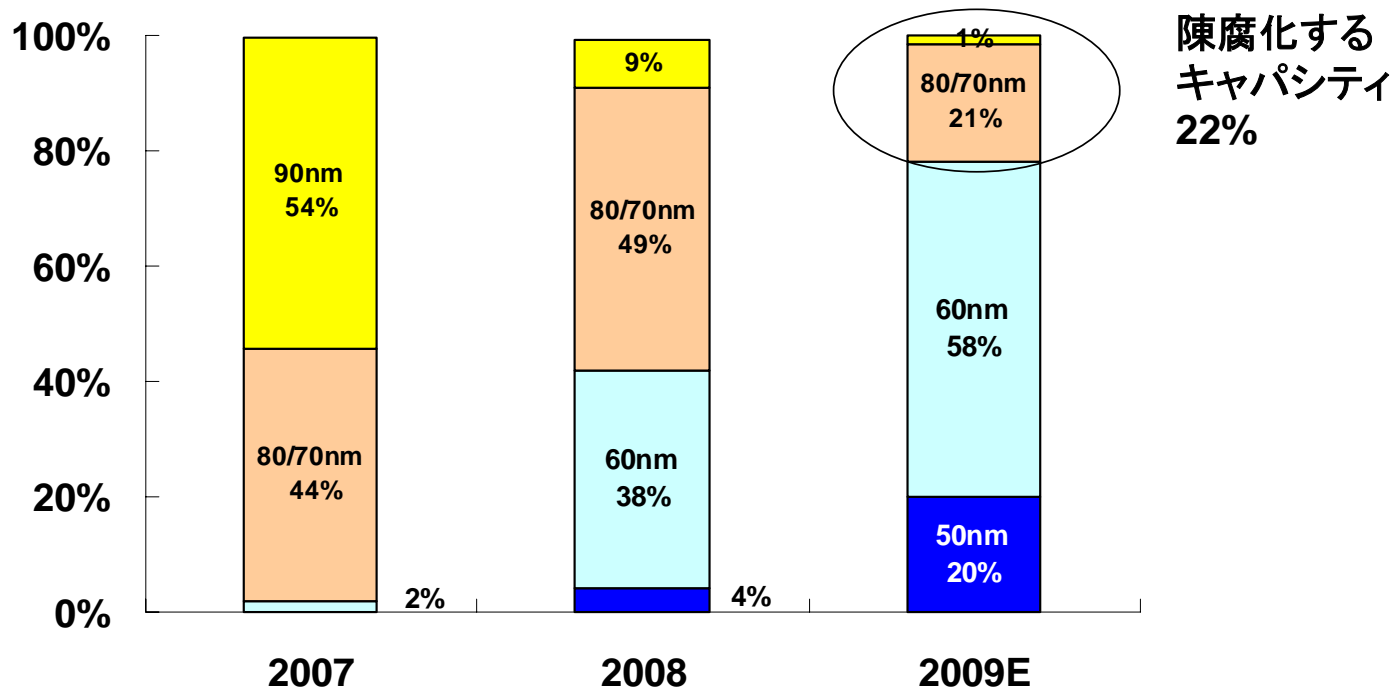
▶ 半導体設備投資

- 世界的な金融危機によりマクロ環境が想定以上に悪化。厳しい受注環境が続く。
- DRAM: 生産調整は進んでいるが需要が弱く、供給過剰が続く。業界再編によるラインの統廃合が起きている。微細化によるコストダウンを目的に50nm投資ニーズは高まると予想される。
- NAND: 需要が弱く価格下落が厳しい。一部の微細化投資に限定されている。
- MPU: 45nm対応の投資が好調
- LOGICファブダリ: 需要が弱く低水準の投資が続く
- 2009年の見込みは、マクロ景気動向に大きく左右されるため現時点では不透明である

▶ FPD設備投資

大型TV向けパネル需要が想定を下回ったために、一部で生産調整が始まっている。年度後半からの投資案件の一部に延期の依頼が出てきている。

DRAMキャパシティ ノード別推移



70nm以上のラインは採算が厳しいため、DRAM生産に使われなくなるか
微細化が進む → 50nm需要が高まる

NANDフラッシュを搭載するSSDの動向

HDD vs. SSD

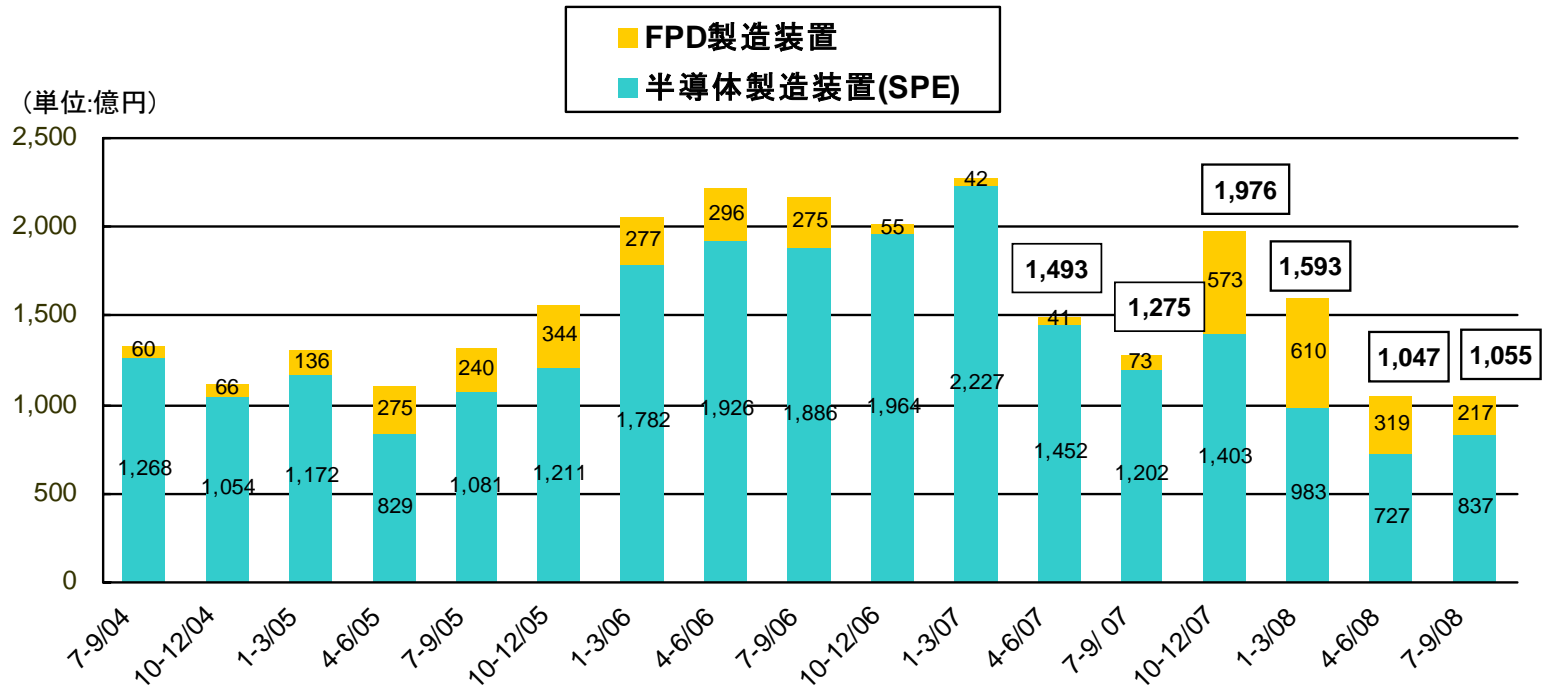


50nmプロセスによるSSDが登場し、サーバー向けとUltra Mobile PC (UMPC) 向けに今年より一部採用開始

SSD: Solid State Driveの略。記憶媒体としてNANDフラッシュメモリを用いるドライブ。
HDD: Hard Disk Drive



四半期 SPE+FPD受注額

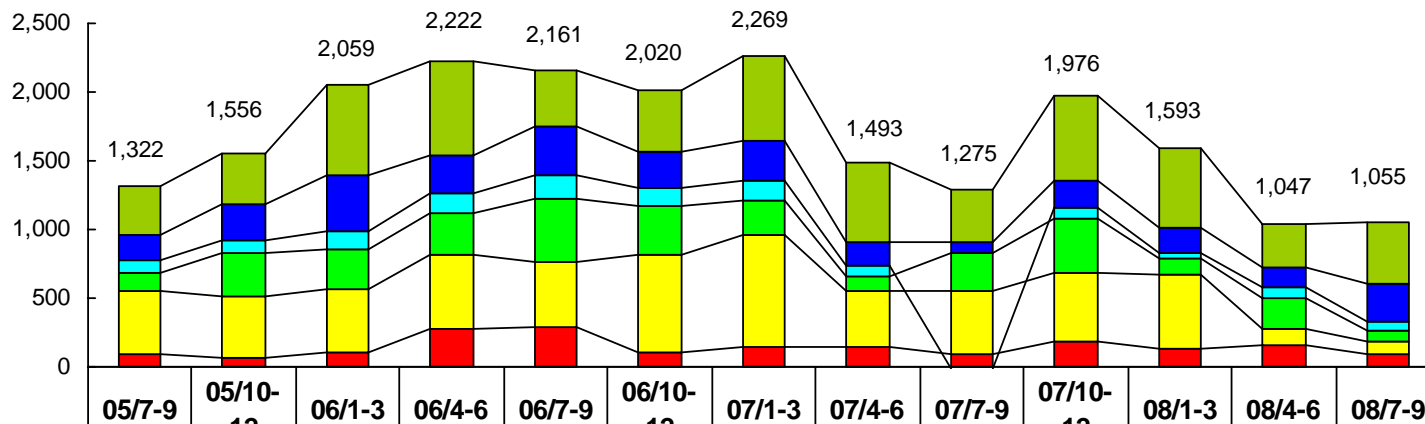


- 2008年7-9月期のFPD製造装置受注には太陽電池製造装置受注が含まれています。
- 2005年10-12月期までは単独ベース、2006年1-3月期より連結ベース
- 単独ベースと連結ベースの主な差異： 連結ベースは海外現地法人におけるポストセールス受注を含む



四半期 地域別 SPE+FPD受注額

(単位: 億円)

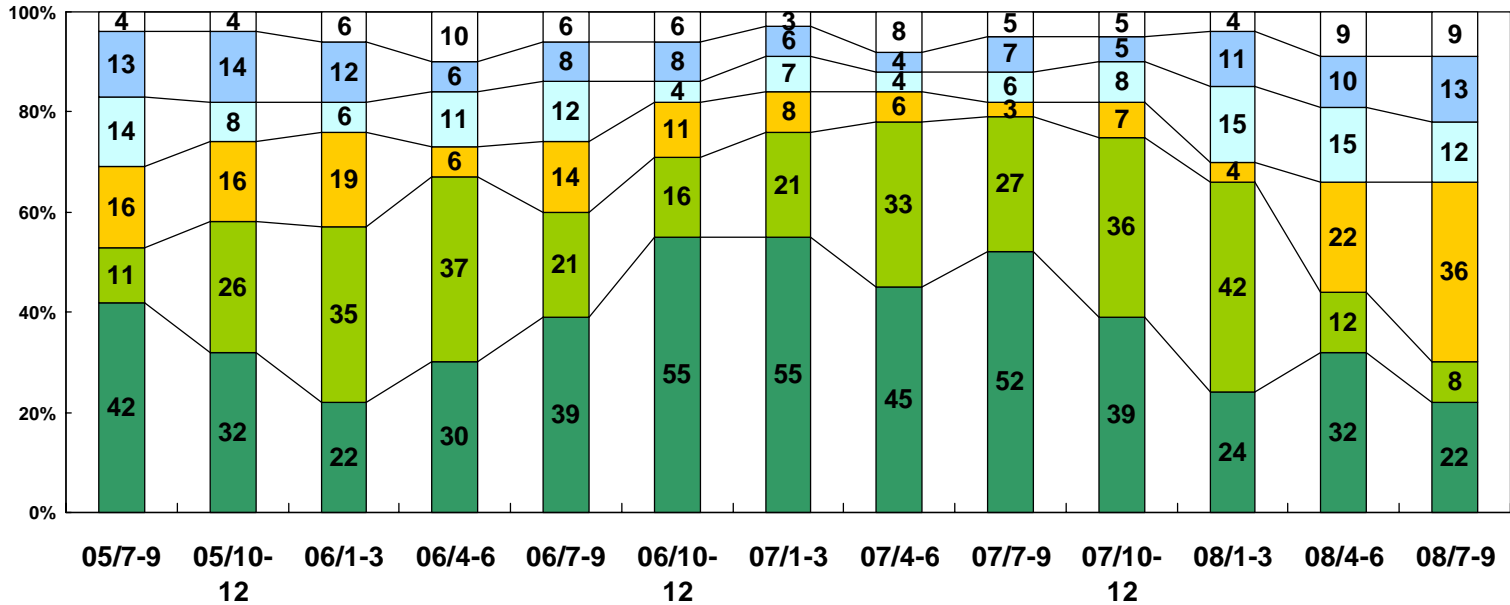


	05/7-9	05/10-12	06/1-3	06/4-6	06/7-9	06/10-12	07/1-3	07/4-6	07/7-9	07/10-12	08/1-3	08/4-6	08/7-9
国内	355	367	666	677	414	451	624	578	378	615	574	318	444
米国	188	264	399	285	344	264	283	172	81	204	184	143	281
欧州	93	91	139	145	175	130	149	86	-8	73	49	79	59
韓国	129	324	290	301	456	353	257	99	268	399	113	228	90
台湾	468	445	457	529	476	710	804	409	470	498	534	121	88
中国・東南ア他	87	62	106	282	293	109	150	147	86	185	136	156	91

- 2008年7-9月期の受注には太陽電池製造装置受注が含まれています。
- 2006年1-3月期より、受注額を連結ベースで表示しています。



四半期 アプリケーション別SPE受注 (本体のみ)



- その他
- システムLSI
- ロジックファウンドリ
- MPU、ハイエンドロジック
- Flashメモリ
- DRAM

(メモリ内訳は当社推定を含みます) 30



2009年3月期 業績予想の再修正



2009年3月期 業績予想修正

▶ 事業環境のさらなる悪化により、下期および通期連結業績予想を下方修正する

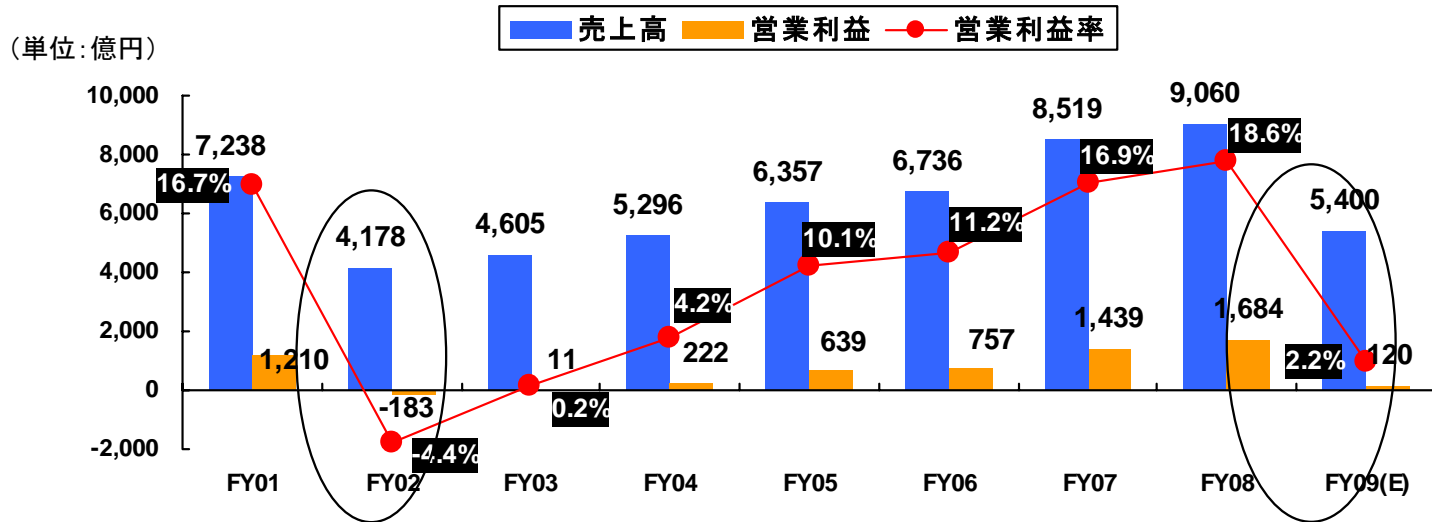
(単位:億円)

	2008年3月期	2009年3月期 (予想)							通期 対前年 増減率
		修正予想 (8/08)			修正予想 (10/31)				
		通期	上期	下期	通期	上期(実績)	下期	通期	
売上高	9,060	3,015	3,285	6,300	3,012	2,388	5,400	-40%	
SPE	7,264	2,068	2,137	4,205	2,087	1,353	3,440	-53%	
FPD	680	410	550	960	401	524	925	+36%	
EC/CN	1,111	535	595	1,130	521	509	1,030	-7%	
その他	4	2	3	5	2	3	5	+10%	
営業利益	1,684 (18.6)	225 (7.5)	285 (8.7)	510 (8.1)	262 (8.7)	-142 (-5.9)	120 (2.2)	-93%	
経常利益	1,727 (19.1)	250 (8.3)	300 (9.1)	550 (8.7)	289 (9.6)	-124 (-5.2)	165 (3.1)	-90%	
税前利益	1,692 (18.7)	250 (8.3)	300 (9.1)	550 (8.7)	286 (9.5)	-126 (-5.3)	160 (3.0)	-91%	
当期純利益	1,062 (11.7)	150 (5.0)	180 (5.5)	330 (5.2)	173 (5.8)	-93 (-3.9)	80 (1.5)	-92%	

1. SPE: 半導体製造装置, FPD: FPD製造装置, EC/CN: 電子部品/コンピュータ・ネットワーク
2. () 内は利益率
3. 利益率及び増減率は、1円単位の金額をもとに計算しています



前回のリセッションとの相違点



1. 大きな受注キャンセルは発生していない
 FY02: ファウンドリのクラッシュ FY09: メモリのクラッシュ
2. 高い研究開発費水準
 FY02: 538億円 FY09(E): 630億円
3. 強固な財務体質
 FY02: ネット・デット1,073億円 FY09: ネット・キャッシュ2,266億円*
4. 資産回転率が改善
 在庫回転日数+売上債権回転日数 FY02: 249日 FY09: 151日*

*当2Q末の実績を表示



今期の重点施策

1. コスト削減

120億円の追加削減を合わせ、通期で320億円の固定費削減を予定(前期比)

2. 成長投資を継続

既存分野・新規分野ともに研究開発投資は緩めない
下期も上期と同水準の研究開発費を維持する。

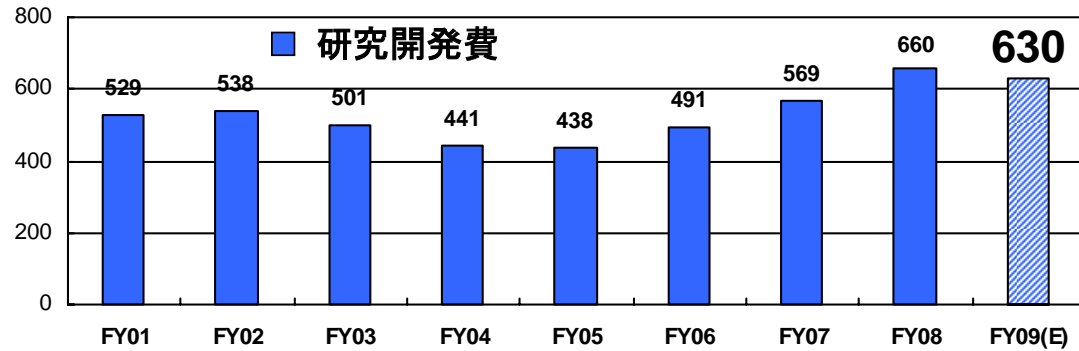
3. 太陽電池製造装置 ビジネス体制の構築

FPD/PVE事業部の新体制がスタート(10/01より)
09年初旬の初号機出荷に向けて、開発を加速

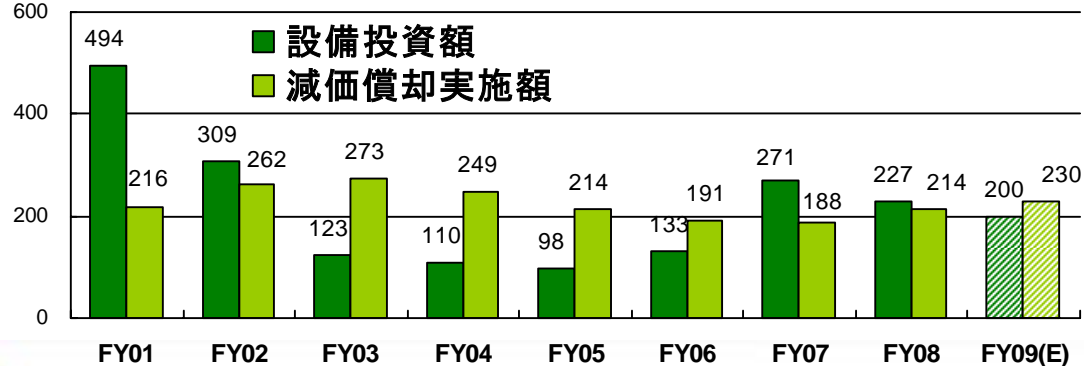
研究開発費・設備投資計画

研究開発費は、将来の成長を見据えて引き続き高水準を維持

(単位: 億円)



(単位: 億円)



サマリー

1. 世界経済危機により業界環境が想定以上に悪化している。
2. 当社業績：顧客の投資凍結・投資延期により、下期の売上がさらに減少する見込みとなった。これにより、連結通期業績を下方修正する。
3. リセッションへの対処として、可能な限りのコスト削減策を講じ、オペレーションを引き締める
4. R&D投資を始めとする成長投資は、不急のものは先延ばしするが、高水準を維持し、次の上昇局面における一層の競争力向上を目指す